

小山雅浩

ストーリー概要

かつて観光地として賑わっていた山間の町、ステラ町。この町で毎夏行われる伝統行事、星流しは多くの観光客を惹き付け、明かりを灯した無数の灯籠が夜空を舞う風景が町の代名詞ともなっていた。しかし時代の流れとともに祭りは衰退、町から若者の姿は消えた。その結果、地方観光事業のお手本とも言われていた町は一転してありふれた、高齢者だけが取り残される寂れた田舎町へと変わってしまった。そんな町で暮らすのが主人公の佳純（26）である。

田舎町の役所に勤務し、仕事に未来もやりがいも見いだせず、そればかりか仕事をするフリをするのが仕事になっているような始末。そんな彼女は、町の観光大使に任命されたタレント、ホシ（46）のマネージャーの仕事を押し付けられる。ステラ町が地元でもあるホシがさびれた故郷に帰ってきた理由はただ一つ、かつて町に活気を誘った星流しを復活させること。初めはなりふりかまわないホシのやり方に困惑していた佳純だったが、次第に彼に影響を受けて行き、彼女自身も星流しの実施に向けて動き出す——。